

令和7年 上富良野町議会第1回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏 名	質 問 事 項
1	3番 湯 川 千悦子	1 老朽化する公共施設の改修計画及び、今後の運営について
2	10番 井 村 悦 丈	1 持続可能な上富良野農業振興に向けて
3	5番 金 子 益 三	1 新しい町立病院のこれからの運営は
4	8番 中 瀬 実	1 斉藤町政2期目の行政課題の進め方について
5	1番 佐 藤 大 輔	1 自衛隊との共存共栄について
6	12番 小 林 啓 太	1 斉藤町長2期目の町政運営に関して 2 分館活動費に関して
7	6番 林 敬永	1 令和7年度新年度予算編成について 2 特別養護老人ホームの運営について
8	7番 茶 谷 朋 弘	1 新こどもセンターと東児童館の運営について 2 地域おこし協力隊の定住について
9	4番 米 澤 義 英	1 こども誰でも通園制度について 2 宿泊税について 3 道の駅について 4 体育館など避難施設の空調設置について 5 スキーリフトの更新について
10	2番 荒 生 博 一	1 上富良野町立病院の経営について

一般質問通告書(令和7年3月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
1 3番 湯川 千悦子 1 老朽化する公共施設の改修計画及び、今後の運営について (町 長)	令和6年3月に改訂された「上富良野町公共施設等総合管理計画」によると、本町では、これまで時代の変化や町民ニーズに対応しながら、公共施設等の整備を進め、老朽化した施設について修繕や改修を行うなど、施設の維持や機能の向上を図ってきています。また、これらの公共施設等は老朽化が進み、安心安全な利用のためには、建て替えや大規模改修を行うことが必要であり、そのためには多額の費用が必要となると示されています。 そこで当町の公共施設等の建て替えや改修をより計画的に進めていかなければならないと考えることから、以下の2点について町長に伺う。 (1) 主な公共施設である役場庁舎は昭和42年建築で築57年、公民館は築53年、更にラベンダーハイツも築40年が経ち、クリーンセンターも大規模な修繕などが必要な時期を迎えている。加えて、富良野広域連合として運営しているが、建物や機材に関しては自賄している学校給食センターも築45年で老朽化が進んでいる。これらの公共施設（役場庁舎、公民館、ラベンダーハイツ、クリーンセンター、給食センター）の改修等の優先順位について、町長の考えを伺う。 更に、これらの公共施設は建て替え、または一部改修工事を行うのか、着工の予定時期はどのように計画されているのか、合わせて、それらに対する財政計画について具体的に伺う。 また、これらの施設を利用する町民がいるので、町民の意見を聞く機会をどのように考えているのか伺う。 (2) 現在、富良野広域連合で学校給食や環境衛生センター（生ごみ処理）等を運営しており、ごみ処理についても富良野圏域市町村で連携を行い進めてきている。葬斎場については、隣町との共同運営を行っていく方針と伺っている。 今後、様々な分野において、公共施設の広域での運営が求められてくると考えるが、給食センターや消防署、そして介護施設等の改修時期に合わせて、近隣自治体との新たな枠組みでの共同運営を行っていく考えはないか。 また、それぞれの施設は建設から相当の年数が経過しており、万が一には使用不能になることも想定されるが、その時の対応について検討されているのか伺う。
2 10番 井村 悦文 1 持続可能な上富良野農業振興に向けて (町 長)	昨年の農業は、春先の天候に恵まれ、大きな自然災害に見舞われることもなく、まずまずの結果となりました。上富良野町農業の特徴は、原野部では水稻を中心に施設園芸も盛んで、内陸性気候によって気温の日較差が大きいことから美味しいメロンなどの他、様々な作物が作付けされている恵まれた地域でもある一方、盆地型地形から山間部では条件不利地などの農地も多い中、土地利

	用型農業であり、規模も大きく耕作され、主に小麦、甜菜、大豆、馬鈴薯などが作付けされている。 J Aふらの営業地域内のうち、上富良野町の農業所得は下位に位置し、主要畑作物の小麦においてその要因が顕著に表れている。 土地利用型で一戸当たりの経営面積が増え小麦、豆類の作付けは更に増える中、連作障害、病害虫の発生により品質低下、収量の減少が見受けられる。そのことから主要作物の小麦の収量を少しでも底上げする手立てを講じる必要があると考える。残念ながら、今の農法は土地を劣化させ、時間とともに作物の生産量を減少させていると言われている。そこで町長に伺う。 (1) 地球温暖化に伴う影響は気象災害だけではなく、食料不足や健康リスクの増大、農業現場では高温などにより、品質・収量面で影響を受けている。2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の取り組みが開始されている今、農作物の品質や収量の向上、化学肥料の使用量低減などの効果が期待できる取り組みとして、私は、農地力アップは農業の基本であることから、例えば地元畜産農家との連携を図り堆肥の施用を促すなど、次世代の担い手のための持続可能な安定生産・経営維持を目指した様々な基盤づくりを、今から時間をかけて行うことが、上富良野農業の底上げになると考えるが、町長の考えを伺う。
3 5番 金子 益三 1 新しい町立病院のこれからの運営は (町 長)	令和7年5月1日に開院が予定されている新しい上富良野町立病院について、入院患者はもとより町民も大きく期待をしており、今後の町民の健康と生命を守る大きな砦となることが期待されている。また増床される介護医療院についても上富良野町の施設介護の中心的役割をはたすことも期待されている。そのような町民から大きく期待されている新しい町立病院について以下3点について町長の取り組みや今後の展望について伺う。 (1) これまで町立病院の常勤医師は内科医2名、外科医1名の3名体制で運営がされてきたが、現在は内科医、外科医それぞれ1名ずつの常勤であり、旭川医科大学から日替わりで3名の出張医師が来ていただいている状況である。幸いに当直医師が旭川医科大学から内科医、外科医それぞれ7名派遣いただき、平日、土日祝日夜間にも運営がなされているが、常勤医の確保ができていない状況において、常勤医師の確保は喫緊の課題と考える。 新病院のオープンが迫ったこの時期に町長はどのような方策で常勤医師を確保しようと考えているのか、また、確保の見通しは如何か伺う。 (2) 上富良野町立病院は現在、内科、外科、救急外来を主な診療科として運営しているが、これまで富良野協会病院などと病々連携を図りながら、泌尿器科、循環器内科、眼科等の診療科目があったが、現在はそれらの診療科目は行っていない。 今後、高齢社会に対応すべく泌尿器科等の診療科目の復活に向けて病々連携の推進や旭川医科大学への働きかけを行っているのか伺う。

	(3) 令和5年度決算で、町の一般会計から病院会計に負担金及び補助金として2億6744万3千円を繰り出している。この間、若干の変動はあるものの概ね2億6千万から2億7千万程度の繰り出しにより運営されている。近年は様々な物価高騰にあり、特に燃油等需要費の高騰や人件費の増高に対して診療報酬の値上げが追い付かない状況、また、処方箋の長期による初診診察の減少などによって病院の経営も厳しい状況である。 町としては継続かつ安定的な病院運営に向けて負担金及び補助金に関して今後どの程度までの繰り出しを考えているか伺う。
4 8番 中瀬 実 1 斉藤町政2期目の行政課題の進め方について (町 長)	斉藤町長の2期目に向けての行政課題の進め方について、次の6項目について町長の見解を求める。 (1) 町立病院の医師確保対策と経営強化プランの見直しについて 新しい町立病院が今年5月にオープンします。病院は新しくなるが、医師不足は解消されず、電子カルテも導入されず、相変わらず長時間の受診待ち会計待ちの状態が続き、新病院オープン時には解消されないものと考ええる。医師確保等ができないことにより、令和5年度から9年度を計画期間とする「上富良野町立病院経営強化プラン」も見直しが必要になると思われるが、その対応について伺う。 (2) ラベンダーハイツの今後の維持管理について 施設も経年劣化により、維持管理も小規模修理は可能だが、大規模な修理は限界があると考え。今後この施設を町として継続して使用していくのであれば、年次計画を持って、規模や予算を立てるべきと思うが、その考えを伺う。 (3) 道の駅構想について 斉藤町政の1期目は道の駅構想については、ほぼ手が付けられませんでした。2期目において、本当に実現する考えがあるのか、どこまで進めようとしているのか伺う。 また、町長が思い描いている「道の駅」について伺う。 (4) ジェットコースターの路の迷惑駐車対策について 第3次上富良野町観光振興計画では、重点課題に位置付けし、その対策例が示されている。その取り組みの進捗状況等は如何か、また、いつまでにどのように解消する考えにあるのか、明確な回答を求めます。 (5) ヒグマ対策について 道内のヒグマ出没件数が年々増加傾向にあります。各地で分布数が拡大しており、人身被害や車との衝突などの事例が報告され、死亡事故も発生しています。最近は越冬しないクマも見られることから、1年中警戒しなければならぬ状況にあります。本来であれば、野生動物の保護と共存が理想であるが、地域住民の生命と安全を守ることが第一であります。人命に関わることから、その対策が急務と思われるが、町の対応状況について

	伺う。 (6) 町民住民会組織再編について 2021年6月にこの件で一般質問を行っています。その中で町長は、住民会連合会と協議したいと答弁されています。これまで色々経過があったことと思いますが、協議された回数と協議の内容、またそれに対する町長の考えを伺う。
5 1番 佐藤 大輔 1 自衛隊との共存共栄について (町 長)	昭和30年、我が町に陸上自衛隊上富良野駐屯地が創設されてから今年で70年を数える。陸上自衛隊上富良野駐屯地は、自衛隊員（以下隊員）の苦労と町民の協力により、今や全国的に評価される存在に至った。国の防衛を任務とする自衛隊と、住民福祉の向上を任務とする上富良野町が、町民の命と暮らしを守るために手を取り合い、双方の努力により良好な関係が今なお保持されている。 この節目の年に、自衛隊と町の共存と共働の絆を、さらに強く太いものにしたいたいとの思いを町長と同じくする者として、以下3点について伺う。 (1) 退職した隊員の再就職については、道北地域援護センター上富良野分室が核となり、自衛隊退職者雇用協議会や役場など各関係機関が連携し支援している。令和5年度は、沿線6市町村在住の退職者26名中14名が沿線内の再就職を果たしたようだが、その割合は年々減少していると聞く。 既にさまざまな業種で人材不足が顕著なわが町としては、優れた資格やスキルを持つ隊員と、町や町内事業者との就活マッチングを強化すべきと考えるが見解を伺う。 (2) 自衛隊に対する後援及び協力活動は、富良野地方自衛隊協力会が中心となっていて行っているが、町内には個別の支援として隊員およびその家族に対し、特別価格で施設を利用できるサービスを提供している事業者も数としては少ないが存在する。 今後、既に整っている自衛隊への支援体制をより強固なものにするために、さらには隊員とその家族という消費力を以て町内商工観光業者を下支えするためにも、隊員とその家族に対する優待制度の輪を行政主導で広げていくべきと思うが見解を伺う。 (3) 平日の朝、国道の南北両方向から駐屯地方向へと流れる、迷彩服に身を包んだドライバーの車列を見るにつけ、通勤の負担軽減という点からも、隊員には我が町に住居を構えてほしいとの思いが募る。 これまでの移住定住対策とは一線を画す取り組みとして、隊員向けの新築住宅補助金制度の創設や、町内空き家物件情報の優先提供など、隊員に「上富良野に住みたい」「上富良野に住み続けたい」との思いを抱いてもらえるような施策の展開を望むが見解を伺う。
6 12番 小林 啓太	町長は先の選挙において町民の皆様からの信任を得て、二期目の町政運営に臨まれることとなり、一期目の経験を踏まえ、さらに町の発展と町民の暮らし

1 齊藤町長 2 期目の町政運営に関して (町 長)	の向上に向けた施策を展開されることが期待される。 現在、少子高齢化や地域経済の活性化、持続可能なまちづくりなど、多くの課題に直面する中で、町の未来をどのように描き、どのような方針のもとで町政を進めていかれるのか、その方向性が町民の関心事となっている。そこで、町長が掲げる今期のビジョンに基づく町政運営について、以下の6点について町長の考えを伺う。 (1) 観光振興に関して、宿泊施設が少ないことなどが理由で、なかなか町内での宿泊、消費が活性化されていない現状がある。今後どのような政策をもって通過型から滞在型への変化を目指すのか。また宿泊施設を増やす取り組みはどのような政策をもって推進していくのか。 (2) 移住定住の促進に関して、どのような属性の移住者を増やしていきたいと考えるか。またそれらのターゲットに移住を促進する為に、どのような政策をもって取り組んでいく考えがあるか。 (3) 病院や介護施設や子育て支援施設など、町内の重要なインフラで働く人材を確保するには、官民を問わず処遇改善の支援を強化することが必要だと考える。町として、どのような支援が重要だと考えるか。 (4) 現在町では、空き家、空き地の有効活用に関して、どのような課題があり、またその課題に対して具体的にどのように取り組んでいく考えか。 (5) 企業誘致と起業支援に関してはどのように取り組んでいく考えか。 (6) 子育て環境に関して、特に自衛官の方などからは「24時間の支援体制」を希望する声を多く耳にするが、実現は可能であるか。また可能である場合、どのような手法をもって実現する考えか。
2 分館活動費に関して (教育長)	町民生活においては様々な地域で多種多様な活動が行われており、その活動は地域コミュニティを支える一助となっている。一方近年は特に郡部においては世帯や人口の減少、また住民の高齢化などにより、コミュニティの活力が失われゆく現状も見聞きすることが多くなってきている。そんな中、郡部の分館活動費に関して見直しが行われることになり、各分館長と話し合いの場が持たれていることを確認している。そこで分館活動費の見直しに関して、以下2点を教育長に対し考えを伺う。 (1) 分館活動費の見直しに至る経緯とその必要性についての町の考えを伺う。 (2) 現在の各地域の分館長との話し合いの進捗、またその内容を踏まえた今後の方向性について伺う。
7 6番 林 敬永 1 令和7年度新年度予算編成について (町 長)	令和7年度の予算編成については、物価高騰の影響により常に変化する社会経済環境に対応することなど将来にわたり持続可能な財政基盤の構築を図ることなど山積する行政課題の対応に向けて日々思案をされていることと推察します。常に予算編成にあたっては、私たち町民の生活向上にどう寄与するかを明確にすることが最も重要なことと考えます。特に予算の配分や使途に関して、

	町民に対して透明性のある情報提供や町民との対話を重視することで、町民の信頼を得られる行政運営だと考えます。令和7年度の予算編成にあたっては、これらの点に留意されていると考えますが、次の点について伺います。 (1) 令和7年度の予算案において、最も重点を置いた分野はどこなのか。また、町民福祉や教育、公共サービスの予算はそれぞれどれほどの割合で配分されているか伺います。 (2) 令和7年度の予算編成において、町民からの意見や要望はどのように反映されているのか。また、住民参加のプロセスについて具体的に伺います。 (3) 令和7年度の予算案には、新たにどのような重点としてのハード・ソフト事業が盛り込まれているのか。また、その事業にかかる予算はどれほどの規模で、町民生活にどのような効果をもたらすと考えているのか伺います。
2 特別養護老人ホームの運営について (町 長)	特別養護老人ホーム「ラベンダーハイツ」は、本町高齢者福祉施設の拠点であり、利用者やその家族にはなくてはならない施設と考えます。同時に待機者もあり、介護士や看護師など職員が不足していることから待機を余儀なくされ他市町村にやむなく入所せざるを得ない状況もあるかと思いますが、このような特別養護老人ホーム「ラベンダーハイツ」に対する町民の希望と期待について町長の考えを伺います。 (1) 特別養護老人ホーム「ラベンダーハイツ」の建設は、昭和59年開設から40年が経過しています。令和5年12月定例町議会において、私が建て替えについて質問した際に、今後概ね10年は現状のままと答弁されましたが、年々増加する修繕費の増加からも早期の建て替えの方針を決断することが急務と思われませんが考えを伺います。 (2) ラベンダーハイツは、平成27年度に赤字決算となり、翌年度から経営安定化の名目で一般会計から多額の繰り入れを行ってきています。介護サービスの質の向上に取り組むためにも老朽化が進む施設など今後の「ラベンダーハイツ」のあり方について、早急に検討する必要があると考えます。第6次総合計画や第10期介護保険事業計画で将来的な介護サービスの必要量を推計しながら第7次総合計画でラベンダーハイツのあり方を考えるとの過去の答弁は、単に課題を先送りしているにすぎません。将来に向け「ラベンダーハイツ」をどのようにしていくのか現状の考えを伺います。 (3) 特別会計への財源補填として、単に赤字補填をするのではなく、この先に対するラベンダーハイツの経営改善を図るためにも、「(仮称)ラベンダーハイツ経営強化プラン」の策定を、早期にすべきと考えますが町長の考えを伺います。
8 7番 茶谷 朋弘 1 新こどもセンターと東児童館の運営について	これまで町長は高校生までの医療費無償化、新子どもセンターの開設等子育て支援に力を入れた施策を展開しており子育て世代の町民から一定の評価を得てきたと感じられる。しかし、人口減少、少子高齢化が進む上富良野にとってさらなる子育て環境や支援の充実は欠かすことができないと考える。新子ども

(町 長)	センターが開設されてから利用者や職員から利用しやすくなった、快適な環境になった、風通しが良くなった等の声があげられる一方で、こどもセンターができたけど利用しづらい、改善してほしい点があると言った声も上がっている。稼働してから約1年と日が浅いこともあり今後の更なる充実が期待されるがこどもセンターに関して以下4点について伺う。 (1) 新こどもセンターが開設され、相談や療育、支援に関して期待通りの成果が出ていると聞いているが町長の評価は。 (2) こどもセンター設置の目的の一つに気軽に利用できる子育て環境の整備とあるが、土、日、祝日には空いておらず、自由に使えるなかよしサロンも4時 30 分までと早いため保育所等に通う園児や平日に働いている保護者からは利用しづらいと言う意見もある。今後開館日や開館時間の拡大・変更等の考えはないか。 (3) 児童館内に幼児用トイレが無くオムツの交換台がないなど幼児を連れて行く際に不便だという声が上がっている。建て替えにあたり事前に建設検討委員会が設置され様々な話し合いがされたがその際にそのような話は無かったのか、今後設置の予定はないのか。 また、新たに策定されるこども計画（案）の児童館運営の項目で「小学生の利用以外に就学前の保護者の触れ合いの場や中高生の活動場所として幅広い施設活用を展開し、異年齢のこども同士の交流を図る」とあるが、中・高生の活動場所として利用増のための工夫は考えているのか。 (4) こどもセンター駐車場は中学校側からの一方通行となっているが表示の看板が小さいため気づきづらく、出口の方から侵入してくる車も少なくないと聞いている。安全対策上からも改善策を伺う。
2 地域おこし協力隊の定住について (町 長)	町長は移住定住の施策としてさらなる地域おこし協力隊の活用を力をつけたいと述べられている。近年の積極的な採用により様々な分野で様々な地域から合わせて12名の協力隊員が在籍し、活躍していることから移住に関して一定の成果を上げていると考えられる。全国的にも地域おこし協力隊の積極的な採用を移住定住の施策として活用する自治体が増えているが、その後の定住に苦戦しているところも多いと聞く。実際、先日視察した大分県竹田市や隣町の中富良野町は採用後の定住率の低さに悩みコーディネート会社を立ち上げ定住に向けて力を入れている。上富良野町もこれから任期満了となる隊員が増加していくため、定住に向けて力をいれていくことが重要であると考えますが以下2点に関して町長の見解を伺う。 (1) 現在活動している地域おこし協力隊員の定住の見込みはどうか。また、定住に向けての課題と解決策は。 (2) 各地で地域おこし協力隊をサポートするコーディネート会社の設立や委託、移住コーディネーターの雇用が増えているが、わが町でも今後活用は考えているのか。

9 4番 米澤 義英 1 こども誰でも通園制度について (町 長)	国は、「こども誰でも通園制度」の26年度に本格実施に向け部分的に試行事業として実施しています。対象年齢は、生後6カ月から3歳未満児を対象に親の就労要件を問わず、利用料負担もあり、月10時間を上限にアプリなどを使って臨時的に保育を頼める仕組みとされている。 この事業は、国の事業のため市町村の関与が限定される懸念、過去の事故検証では預け初めの事故が多く、リスクが高いとも云われており、子どもの安全に不安があると考えます。また、保育士の人手が足りない中で、さらに負担が増えることになりかねません。 現在国が進めようとしている「こども誰でも通園制度」では子供の成長と安全を保障することはできません。公的保育の拡充こそ、求められていると考えます。次の点について伺う。 (1) 令和7年度から試行事業とするのか。また、課題と問題は何か。 (2) 認定こども園との情報の共有が必要と考えるが。 (3) 親が就労していない家庭のこどもの状況は。 (4) こどもたちの成長と発達にとってどのような保育が必要なのかを検討に据え、0歳児から3歳未満児の定員の拡充と保育士の確保が必要と考えるが。
2 宿泊税について (町 長)	観光振興の財源などとして、ホテルや旅館などで宿泊した際に新たに宿泊税を導入する自治体が増えてきている。上富良野町においても宿泊税の導入の動きがあると聞いているが、北海道では2026年度4月から宿泊税を道内、道外を問わず宿泊客から徴収をすると表明している。 一方で、宿泊税の導入においては、課題などもあるような気がします。例えば、通院・仕事など観光以外の目的の宿泊者からも徴税することに対する疑問や徴収する事業者にとっての事務負担や客離れを懸念する声などもあり、宿泊税の導入においては、その目的など地元住民や関係する事業者などに説明して、理解と合意が必要と考えるが、次の点について伺う。 (1) 町としてホテルや民泊、宿泊施設などの宿泊者から観光振興のための宿泊税の導入を検討しているのか。 (2) 宿泊税の徴収の対象範囲は。 (3) 宿泊税の導入においては、観光振興のために必要との声や宿泊客が減るのではと心配をする声もあり、住民や関係する事業者との協議が必要と考えるが。
3 道の駅について (町 長)	道の駅は、地元の農産物、加工品の販売などを通じて町の情報発信や観光の拠点ともなっている。また、最近では地元の人たちと交流の場所としても利用されている。多くの町民も道の駅の設置を望んでいるが、道の駅設置については具体的な方向性が見えないのが現状である。例えば、道の駅を設置してどのような町づくりをしたいのか、さらに、設置場所や施設規模、財源の確保など基本構想や計画など示すべきと考えますが示されていません。また、何よりも重要だと考えるのは町民や関係する機関との話し合い情報の共有が必要と考え

	るが答弁を求める。
4 体育館などの避難施設の空調設置について (町 長)	近年では、火山の噴火、大雪、豪雨災害などの自然災害が発生して生業や住民の暮らしを脅かしている。住民の暮らしを守るためにも、普段から自然災害に対する対策が必要となってきた。災害時には町においても体育館などの公共施設等は住民の避難場所として指定されている。国においては暑さ対策として避難してきた住民の健康を守るために、学校体育館などに空調設備を設置する場合の財政措置をしているが、今後の町の対応について伺う。
5 スキーリフトの更新について (町 長) (教育長)	日の出山のスキーリフトは、修繕をしながら維持もされているが、設置されてから年数も経過し老朽化している。 滑走式のリフトのため、子どもたちが利用した時などは、左右に降られて転倒することもあり、利用者の安全を考えればチェア式リフトに更新し、夏場のラベンダー時期に観光客も利用にもできるようにする対策が必要と考えるが対応について伺う。
10 2番 荒生 博一 1 上富良野町立病院の経営について (町 長)	上富良野町立病院改築整備事業も大詰めを迎え、移転計画によると5月1日開院を目指し鋭意工事が進められてきている。新病院の開院は町民にとって喜ばしい事ではあるものの、実態は、慢性的な医師不足や医療従事者不足の解消や赤字経営など課題は山積しており、また、残念ながら新しくなるのは建物だけで、電子カルテの導入や、新しい診療科の標榜など町民にとっての利便性などが図られていないのが現状である。このことから、以下2点について伺う。 (1) 「上富良野町立病院経営強化プラン（計画期間 R5年度～R9年度）」では、新病院開院後の一般病床数を30床、介護医療院を40床とし、常勤医師3名体制を基本に開院後には現在の赤字経営から黒字に転ずることが示されている。しかしながら、現行の体制である常勤医師2名のまま新病院が開院された場合、当然ながら入院や外来患者の計画数は見込めず、また、介護医療院においても現在の稼働率から推察すると、40床に増床をしても満床にはならないと考える。このことから以前我々に示された「町立病院経営強化プラン」は、今となっては以前示された数字と現状との乖離が大きくなっていると考える。 このことから、早急に計画の見直しを図り、これからの病院経営をどのように行い最終的に黒字化を目指すか我々町民に将来の展望を示すべきと考えるが、町長の考えを伺う。 (2) 全国的な医師不足や、今般の物価高騰による経費の増大、そして人件費高騰による医業費用や介護施設事業費用の支出増は理解するが、この先の持続可能な町立病院経営を考える上においては、現実即した事業計画を早期に作成し、且つ、医師不足解消に向けた更なる働きかけを継続的に行い、着実に病院経営の安定化を図っていくべきと考える。 以上を踏まえた上で、今後の上富良野町立病院の経営全般について町長の見解を求める。

